令和6年度 第1回沼津市幼保小連携協議会 報告

1 日 時

令和6年9月11日（水）14:30～16:20

2 場 所

沼津市役所 水道部庁舎 3階会議室

3 出席者

雨宮 なおみ （香貫小学校長）

渡辺 司 （小百合保育園長、沼津市幼児教育研究協議会会長・沼津市保育園連盟会長）

後藤 信俊 （幼保連携型認定こども園こずわ幼稚園長、沼津市私立幼稚園協会会長）

真野 津久美 （大平幼稚園長）

朝香 美智代 （大平保育所長）

蓮池 幸美 （第三小学校 教諭）

教育企画課、学校教育課、教職員研修センター、こども未来創造課（事務局）

4 協議内容

(1) 令和6年度沼津市幼保小連携合同研修会について及び今後の取組について

【事務局より】

令和6年6月7日に開催した沼津市幼保小連携合同研修会でのアンケート結果を踏まえ、次年度の研修内容の検討、今後連携をさらに推進していくためにどのような取組をするとよいか。

(主な意見)

6月7日開催沼津市幼保小連携合同研修会について

- (幼保) 幼保小の教員が顔を合わせて互いの保育教育について理解を深める機会は大切である。職員が交流することが、子供理解にもつながっていく。少しずつ理解し合っていけるとよい。
- (幼保) 子供だけでなく、保護者も小学校への入学は環境が変わるため不安に思っている。保護者にも幼児教育と小学校教育のつながりや違いを理解してもらい、安心して入学を迎えられるようにすることが大切である。
- (小) 入学後の子供の様子について、具体的な話をすることができた。対面で研修を行えるよさであった。入学後の子供たちのことを幼保の先生方が気にかけてくださっていて、悩みを共有することができた。「Spring プロジェクト研究」の冊子についても、若手教員と共有し、授業に取り入れている。
- (幼保) 入学後の様子について、小学校からのフィードバックがあると送り出す幼保としても安心できる。昨年度の担任に聞かせたい話もあった。
- (幼保) 就学前に園に参観に来て、子供の様子を把握してもらうことで、学校全体で準備をしていたケースがあった。ブロックにかかわらず、子供や保護者が、安心して小学校へ通えるように、連携をしていくことが重要である。書面の情報だけでは分からない部分がある。
- (小) 入学前に子供の様子を把握できたことで、ケース会議を行うなどして準備をすることができた。情報共有の大切さを感じた事例であった。
- (小) 教育講演会で、幼児教育と小学校教育のつながりについて改めて理解することができ、有意義であった。
- (小) 富士で勤務した際には、全園を教頭が訪問し、子供の様子を把握することができた。園に呼んでもらい、情報共有できることはありがたい。

次年度の幼保小連携合同研修会について

- (小) 6月上旬という早い時期に開催することができてよかった。
- (幼保) グループワークでは話したいことがたくさんあった。1年生の担任が園の先生と話せる機会になるとよいと感じた。
- (幼保) 年長の担任に直接聞かせたい話もあった。担当者が出席できるとよい。
- (幼保) 幼児教育施設は、小学校の下請けではない。しかし、小学校入学に向けての具体的な話ができるとうい。
- (小) 入学前にどんな力が身につけているのか、小学校の教員が知る必要がある。入学前にできていることがたくさんあるのに、入学後に教員が手を出しすぎていることもあると思う。
- (幼保) 保護者から入学前に〇〇をやらせてほしい、と要望があるとやらざるを得ないこともあると思うが、発達段階に合っていないことをさせてしまうと、自己肯定感が下がってしまい、学びへの意欲も低下してしまう。好きなことをとことんやらせて学びの芽を育てていくのが幼児教育だと思う。小学校に入学した後困らないように、ということで作っているけれど、本当に子供のためになっているのか、とってしまう。幼児教育と小学校教育のつながり、学びのねらいが異なることを、保育者や教員が知ることが大事である。そのためにも、話し合いをしていくことが必要である。

(2) 幼保小連携推進に向けた取組について

【事務局より】

県指定研究「Spring プロジェクト研究」の一環として、静岡県教育委員会幼児教育推進室とともに、幼保小接続シートの試案を作成した。沼津市内で統一したシートを用いるにあたり、このシートの目的や内容、活用方法などについて検討したい。

(主な意見)

幼保小接続シートについて

- (小) 入学前に子供の情報はあっても、保護者の思いや願いを知る機会はこれまであまりないので、知ることができるのはありがたい。
- (幼保) シートを記入することで、保護者自身も、自分の子育てを振り返る機会になり、小学校入学に向けた心構えができると思う。入学への意識が高まる一步になる。
- (小) 入学に際して、保護者も不安を感じていることがあるので、小学校へ伝えたいことはたくさんあると思われる。小学校でもシートを活用し、支援を継続していきたい。
- (幼保) 保護者とともに、という姿勢で支援を継続することが大切である。
- (幼保) このシートを使っていくことになっても、これまでのように、引継ぎのための対面した連絡会は継続したい。連絡会での情報を書き加えられる欄を設けたい。
- (小) 身長を記入する欄があるのはよい。机の高さを合わせるということ一つとっても、必要な情報である。
- (幼保) 子供を知る上では、保護者を理解することが大事である。いつから使用するか。
- (事務局) 令和8年度入学の児童から全市的に導入したい。
- (幼保) 令和7年度入学の子を対象に試験的に行うパイロット地区があってもよいかもしれない。よりよいものに改善していける。